OBOGのキャリアデザイン

淑徳魂を燃やして、患者さんの笑顔を支え続けたい。

あきらめていた夢に再び挑んで道を拓く。

愛知淑徳は、自分のことより人のために時間やエネルギーを使う、心優しい生徒が多い学校。その恵まれた環境のもとで人生の基盤を築くことができました。在校中、思い出深いのが硬式テニス部の活動です。厳しい練習を乗り越えて粘り強く頑張る力が鍛えられ、部員みんなの結束力も強くなりました。中高6年間、良い友人に囲まれて勉強、部活、学園祭やマラソン大会などの学校行事に励み、とても充実していました。

進路を考え始めたのは中学生の頃です。母が入院したとき、人を支え、助ける医療の仕事に憧れて「将来、医師になって人の役に立ちたい」と漠然と考えるようになりました。でも大学受験が近づくにつれ、私には医学部は難しいかもと及び腰になり医学部受験に失敗、別の道を探って経営学部に進学。

そして保険会社への就職を決めた大学4年生の頃、大きな転機が訪れました。今度は父が入院し、医療職の魅力を再認識したことがきっかけで「やっぱり、夢をかなえたい」と心が定まったのです。なんて無鉄砲なんだろうと今は思いますが、入社2年目で退職して受験勉強に取り組み、念願の医学部へ。25歳で再び大学生となり、医学の道を歩み始めました。医師になってからは名古屋掖済会病院、名古屋大学医学部附属病院を経て、あいち小児保健医療総合センターでアレルギーの診療研究に従事。結婚して2児の子育てをしながら、約20年、小児科医として診療や研究などに励んできました。

アレルギーの診療だけでなく理解の輪も広げていく。

近年、食物アレルギーは患者数や重症化のケースが増えています。小児アレルギーを専門とする私は、春日井市民病院で働く現在、臨床現場で患者さんと向き合うことはもちろん、後進育成、アレルギーに関する啓発活動にも力を注いでいます。食物アレルギーは命に関わるものですので、理解の輪を広げるため、春日井市の学校教育課、保育園、小中学校、学童保育所の先生方に向けて会議や講演会などを行ってきました。また、小児アレルギーセンターの立ち上げにも携わり、小児のアレルギー疾患全般のきめ細かい診療に努めています。小児アレルギーは治療期間が長く、15年近く担当している患者さんもいます。食べられるものが増えて喜ぶ顔や大きく成長する姿をご家族と一緒に見届けることができて、本当に良い仕事だなと実感しています。

愛知淑徳の後輩たちに伝えたいのは「一度きりの自分の人生、目標が決まったらやりたいことを全力で頑張って！」ということ。私も医師として努力を重ね、多くの笑顔に貢献したいと思います。



部活、学校行事、勉強と夢中だった中高時代。当時の友達は、卒業して長年経った今も頼ったり本音で語れる大切な友達です。



勤務先の小児アレルギーセンターでは外来も担当。医師として学び続け、患者さんの笑顔に還元していくことが一番のやりがいです。



小児科医師 **小林 貴江さん**

愛知淑徳高等学校を1992年3月に卒業。南山大学経営学部卒業後、保険会社に就職。その後、岐阜大学医学部で学び医師の道へ。専門分野は小児アレルギー。現在は春日井市民病院にて小児アレルギーセンター主任部長を務める。高校生と小学生の母としても奮闘中。